



report 01 しらとりは楽しからずや!!

去る2月5～6日に私たち一向7名が霞ヶ浦流域から新潟・佐潟を訪問した。

例年にないほどの大雪との報道に戦々恐々として降り立った新潟市内は呆気ないほど積雪もなく、駅まで出迎えてくださった相楽さん、森本さんの車に分乗させて頂いて旅のスタートである。水辺の会が活動しておられる市内の数ヶ所を案内していただく。

特に印象的だったのは山の下閘門である。丁度木材運搬船が通過して、閘門を隔てた水の落差を目の当たりにした。また通船川、栗ノ木川沿いの植栽事業は近未来の林の実現を私たちが共に待ちたい思いである。

今回の新潟訪問の目的は(社)霞ヶ浦市民協会で霞ヶ浦の浄化活動に取り組む私たちが、生物多様性の回復を目指してラムサール条約登録地の視察と現地の経験を学ぶことであった。

これまでも釧路や谷津干潟を視察したり、シンポジウムを開くなど住民が地域にある湿地の保全にどのような努力を重ねているのかを研修してきた。佐潟は砂丘にある湖で自然な形を保っていること、餌づけをしないでハクチョウが数千羽も飛来することで知られている。

昨年から真冬に視察にくるプランを立てて実現したものだった。ウェルサンピアに宿泊しいよいよ翌朝は佐潟である。本日の飛来数2,826羽、湿地センターに掲げられたコハク

チョウの数に思わず驚嘆の声が挙がった。

それもその筈、私たちの住む茨城にも真冬にハクチョウはやってくるが、せいぜい数十羽でおおいに話題となり休日ともなれば見物人で賑わう。佐潟の湖面に群れなして漂うハク

チョウは朝の光の中を仲間とつれだつて羽ばたきの音も高くとびたつてゆく。数羽あるいは数十羽が空に消えてゆく様は、はるばる霞ヶ浦からやってきた私たちが充分満足する光景であった。湧水を湛え、ブラックバスのいない湖は素晴らしい。

首都圏の水がめとして開発され尽くした広

大な霞ヶ浦とはまったく条件は違うが、ラムサール条約登録までの道筋では多くの示唆を与えて頂いた。地域の住民が何を為すべきか学ぶ点が多かった。

新潟水辺の会のご配慮で山の下閘門、佐潟水鳥湿地センターで詳しい解説をしてくださった職員と会員の方々に一同感謝し、これからも私たちの行動の模範としなければならぬと思った。

それにしても新潟の「食の陣」は誠に結構なものでした。



群れをなして飛翔する白鳥の姿に感動しました。

(社)霞ヶ浦市民協会理事
NPO 法人新潟水辺の会会員
岩崎 惇子

手弁当の「栗ノ木川さくら祭り」

第2回 踊れ、「栗ノ木川さくら祭り」が今年も4月24日に川沿いの小学校(笹口・沼垂・木戸)の子ども達やPTA、老若男女の参加を得て盛大(一般参加者、約5,500人)に行われました。



水辺の会も板合わせやNETボートの乗船体験で参加し、350人が水上からの桜並木を楽しみました。

さくら祭り開催のキッカケは、一昨年、川沿いにある沼垂小学校5年生が「栗ノ木川ルネッサンス」として16チームに分かれ川の環境を甦らせ自然を再生して地域の憩いの場にしたい思いから現地調査や川底のヘドロの利用法、学校給食の廃油から水を汚さない「EM石鹼」を造り実験をしたり、お年寄りに昔の川の様子を聞き取り調査もした。

40年ほど前は、川で洗濯をしたり魚が泳ぐのが見え「板合わせ」(木の小舟)が岸边につながっていたり「川が生きていた」様子を聞きました。

子ども達は、住民から教えてもらったお礼に調べた結果を報告するため案内チラシをつくり体育館で発表会を開催しました。

発表の中で、一級河川にフェンスが張られていることに疑問を持ちフェンスをはずして、子どもからお年寄りまで水辺に親しまれる川の様子を大きな絵にして発表しました。

その話しを聞いた参加者が多くの住民に川を見てもらい川の未来について子ども達一緒に考えよう...と始めたのが「さくら祭り」で昨年は大変盛況でしたので毎年行われることになりま

した。

そして、イベントに欠かせない祭り踊り好きの実行委員が1人いて、そのプログラムにオドロキました。プロとセミプロ集団と地元芸能人が列挙されているではありませんか?...少なくとも、うん万円~10数万は越えそう...うそ~その予算だれが何処から生み出すの~と頭を抱え込みました。その他、臨時営業の許可、イベント保険、ボランティア(交通整理や駐車場の管理等約50人)のお昼代等のお金は何処から出るんだ~よ~

え~と、フリマは、子どもやPTAが不用品交換(リサイクル)で参加費無料となっている。屋台販売の出店料は7店×3千円=2万1千円+企業協賛3万円=5万1千円、収入源はこれだけ...こうなったら、実行委員会も金儲けをしよう。出店者の了解を得て飲料販売は全て実行委員会が受け持ち缶ビール50ケース、ジュース類25ケースを問屋に注文。残ったら引き取りの条件だ。どれだけ売れるかお天気まかせ、当日、朝は風が強くやや寒かったが祭りが始まると熱気がむんむん、フリマに陣取った子ども達の客呼びの大声、踊り見学の人で溢れ屋台の食べ物は飛ぶように売れ、気が付いたら、ビール、ジュースも残り少なくほぼ完売に近く少量の残は実行委員の有志が買い取ってくれた。さて、夜は2千円の反省会となりチョットした1品料理に5~60人が参加、来年も頑張るぞ~...と盛んに吠えまくっていた。最終決算、繰越金1万円。

踊れ、「栗ノ木川さくら祭り」実行委員

星島 卓美

(事務局より)

※この乗船体験は「こしじ水と緑の会」の助成で行われました。

※乗船体験アンケートへのご協力ありがとうございました。後日結果をお知らせします。

※7月31日には通船川松崎・大形地区で水辺交流ボート大会を予定しています。

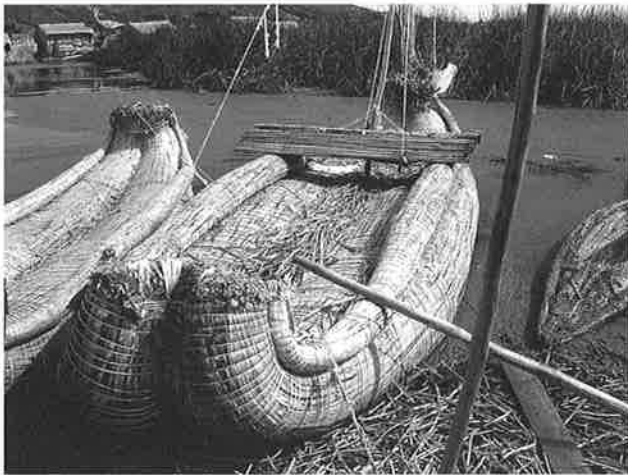


report

チチカガ湖で葦舟を漕ぐ

湖上で葦舟(バルサ)を漕がせてくれと交渉した船頭さんは21歳のアンデス美人、ようやくわかってくれて漕がせてもらうことになった。

櫂の形状は長さ2.25m、直径6cm位の丸太の下方に長さ1m、幅13cm、厚さ3cmくらいの板を取り付け、最上部の左右に2本の細い木の棒が取り付けられてあり、それを「にぎり」として両手または片手で漕ぐ。



素朴とゆうか粗雑とゆうか、よくこんな櫂でバルサが漕げるものだと感心した。

アンデスの高地では樹木の植生はなく木材が貴重品であると考えられ、逆に1000年来の歴史を感じた。

バルサの最後部にV字形に2本細い棒が取り付けられており、あいだに櫂を入れて漕ぐ。漕ぎ方は和船の板合わせと同じ八の字に水を押しながら漕ぐのだが櫂の太さよりV字形の「遊び」が大きく大変漕ぎにくい。

船頭さんに手を取って「こつ」を教えてもらいながらすぐに漕げるようになり、ゆっくり、のんびりと音もなく滑るように湖上を進み時空をこえアンデスの空と澄んだ空気を満喫した。ところが、15分間もしないうちに息が切れてリタイアしてしまい、あらためて標

高3,800mを実感した。旅の目的の一つを成し遂げた感動は忘れがたいものとなった。



その後、船頭さん一族が生活している浮島に上陸し、葦で造られた家の生活を見学し(屋根にソーラー、部屋に小型テレビ)手造りの民芸品を購入後モーターボートでプーノに戻った。

バスに乗ってすぐ、現地ガイドが私に、「アンデス美人の船頭に浮島に残って結婚し一緒に生活しないか話してくれと頼まれて困った」と言い出したとたん、同乗のツアー客は盛り上がり、考え直して戻るなら今の内だと皆で囃しだした。

一瞬、ふっと考えたりして……これだから旅は止められない。

世話人 松野 直一

「千曲川・信濃川考流会」のお知らせ

恒例の長野県水辺環境保全研究会と新潟水辺の会の合同研究会が長野県明科町で開催されます。

日時 平成 17 年 7 月 2 日 (土) ~ 3 日 (日)

集合 2 日 新潟駅南口午前 7 時 30 分 (現地集合は明科町長野県水産試験場 午後 0 時 30 分)

内容

2 日 12 時 30 分 長野県水産試験場、水辺の楽校、巨石水制群、龍門渕あやめ公園 見学・明科町立「せせらぎ」で休憩・穂高大王わさび畑、万水川・犀川合流地一帯 見学

研究発表会 明科町研修施設「ひまわり」

19 時 30 分 懇親会 明科町保養センター「長峰荘」

3 日 9 時 30 分「長峰荘」出発

10 時 国営アルプスあづみの公園 見学

13 時 解散 18 時 新潟着 (途中、寄り道しなければ)

参加費 研修会・懇親会出席、宿泊する 11,000 円 研修会・懇親会出席、宿泊しない 7,000 円

研修会のみ出席 500 円

国営あづみの公園入場料 (400 円) 及び昼食代は各自の負担です。

交通費は乗用車乗合で実費負担です。(3,000 円程度)

申し込み締切：6 月 6 日 (月) (必着)

申し込み先 新潟水辺の会 森本まで

電話 090-1613-1879、ファックス 025-264-3260 メール info@niigata-mizubenokai.or.jp

当日の連絡先 森本 090-1613-1879

見どころ

明科町は信州の水郷の町で、北アルプスから流れ出る湧き水を利用した養鱒業が盛んです。

犀川沿線に花菖蒲の大公園「龍門渕公園」や長野県水産試験場があり、サケ類を中心に研究が行われています。

犀川右岸には水辺の楽校があり、散策道や運動施設、御法田の池があります。左岸側は高瀬川、穂高川、万水川が合流しており、特に万水川と犀川の合流地一帯の河畔林、ワンド、タマリ、湧き水小河川などの水辺空間は美しく立派です。

国営アルプスあづみの公園は昨年一部オープンした新しい公園で、北アルプスの山麓に広がり、北アルプスから流れ出る水を巧みに利用した公園です。園内には水族館があり、多くの鳥や蝶、花が見られます。

自然とふれあう研修の旅、会員外の方でも参加出来ます。皆様の参加をお待ちしています。

世話人 森本 利

■会員紹介

m e m b e r s



小磯 郁子

水辺に縁のあるところに住んできた。東京は荒川で生まれ、茨城の北浦で育ち、子育ては多摩川、そして現在は鳥屋野潟沿いに住み、毎年春は桜、冬は白鳥をと満喫している。

いつまでもこの美しい自然が続くように願っている。



佐藤 英世 地球環境守り隊主宰、新潟県自然・環境保全連絡協議会会員

水辺の環境には、機能景観問題と水質問題がある。機能景観は見た目である程度判断できるが、水質に絡む汚染問題は見た目だけでは判断不可能である。環境白書にもあるとおり、水質汚染の原因の60～70%は家庭廃水である。近年の化学物質の反乱で、我々一人一人が日常使用の科学物質、特に大量使用の化学洗剤を見直すことが重要である。きれいな水とそこに安心して憩える水辺、これが我々の望む空間ではないでしょうか。



織田 幸子

新発田（旧北蒲豊浦町）の農家に生まれた私、まわりには大小いろいろな川（水路）があり、タニシを拾う田んぼ、魚やドジョウをとる小川、ちょっと大きい泳ぐ川・・・と水遊びの好きだった子どもの頃を思い出し、今はどんな川になっているのか、昔と変わらない水辺が残っていることを願いつつ・・・

■総会のご案内

日時：7月9日（土）15:00～ 総会 17:30～交流会
会場：新潟市生涯学習センター（クロスパルにいがた）

【事務局からのお願い】

連絡先の確認について

新年度をむかえ、転勤など連絡先住所が変わった会員の方は新しい連絡先住所などを事務局までお知らせ頂けますようお願いいたします。

『新潟の水辺だより』の原稿を募集しています。

この号から試験的に会員に広く呼びかけ、原稿を募集しています。

国内外を問わず身近な水辺に関する話題、水辺

での体験、旅行のエピソード、日頃思っていることなどの原稿をお寄せください。

1ページは1500文字程度で、写真1点（追加の場合は写真1点につき250文字分を調整してください）

半ページは700文字程度と写真1点
紙面の都合で1つの記事は1ページが上限となりますので、あらかじめご了承ください。

■イベント情報

6/5(日) 全国一斉水質調査

会場:新潟県内の水辺

内容:新潟県内16団体の協力のもと、簡易パックテストによる水質調査を行う。

5/22～9/25まで全9回通船川草刈隊行動参加

6/5(日) 多門川再生研究会

(05年度に4,5回予定)新潟市生涯学習センター

6/5(日) 新潟市環境フェア

会場:ふるさと村、内容:パネル展示

6/11,12(土・日) 水郷水都全国会議

会場:福岡県久留米市

7/2,3(土・日) 信濃考流会

会場:長野県安曇野

内容:恒例の長野水辺の会との交流会

7/9(土) 新潟水辺の会 総会

会場:新潟市生涯学習センター(クロスパルにいがた)

7/16,17(土・日) 川の日ワークショップ

会場:愛知県豊田市・矢作川

7/31(日) 通船川中流水辺の交流会

会場:新潟市松崎(通船川)

内容:地域住民参加でNETボートによるカヌーレースや交流会を行う

8/21(日) Eボート大会

会場:新潟市内信濃川やすらぎ堤

内容:NETボートによるカヌーレース大会

8/27(日) 中ノ口川大曲水辺の体験交流会

会場:燕市大曲

内容:燕市内中ノ口川でのカヌーイベント

9/4(日) 通船川クリーン&草刈隊

9/10(土) つづくり市民会議

9/17(土) 多門川再生研究フォーラム

NSTホール(予定)ソウルからゲストを招き多門川再生を検討する

9/18(日)～19(祝)

信濃川-日本海100km川下りツアー参加予定

9/24(土) 佐潟クリーン&ハスとり大会

会場:新潟市内佐潟

内容:恒例の佐潟での蓮根とりと野草の試食など

10/22(土) 新潟市民環境会議

入 会 案 内

この会は、遊び半分・真面目半分で活動しています。

ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。

自分の足で水辺を歩くなりして、自分でも感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。

今までとは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けて見ると、同じものを見ているのに今までとは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。

この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていくような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年:1987年10月15日 ■目的:水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。

■代表者:代表 大熊 孝(新潟大学工学部教授) ■会員数:個人210名・法人12団体(2005年5月現在) ■活動:水辺シンポジウムの開催/水辺ウォッチング/会報「新潟の水辺だより」の発行/水辺環境整備に関する学習会/長野県富山県の水辺グループとの交流会/通船川、佐潟の調査・研究 etc. ■年会費:個人会員一口1,000円を2口以上、賛助会員(法人など)一口5,000円を2口以上

入会申込書

		年	月
フリガナ氏名		男・女	
		歳	
特技や水辺への想い		メールアドレス	
住所	〒	()	-
職業			
勤務先	〒	()	-

注)紙面の都合上、縮小しています。
250%程度拡大コピーをしてご使用下さい。

●事務局からのお願い

インターネットメールで随時会員の皆さんに情報をお届けしています。メールアドレスを新しく持った方、アドレスを変更された方は事務局まで御一報ください。

●発行:特定非営利活動法人 新潟水辺の会

●事務局:〒950-2264新潟市みずぎ野4-7-15

大熊 孝 方

Phone 025-264-3191

F a x 025-264-3260

e-mail: info@niigata-mizubenokai.or.jp

ホームページ

http://www.niigata-mizubenokai.or.jp